

令和 3 年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（１）基本目標

人間尊重の精神を基盤とする，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（２）具体目標

合言葉【仲よく 強く たくましく】

- ・よく考える子ども：規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども：自他のよさに気付き，共に伸びようとする子ども
- ・体力のある子ども：心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
- ・はたらく子ども：目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり，保護者・地域住民と一体となって連携・協働し，活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して，目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 保護者にとって「通わせて安心な学校」
- 地域住民とつくる「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く学校」

- ・ 互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い，すべての児童にとって居がい感のもてる温かい雰囲気
- ・ 道徳科を核にした心の教育や児童の認め励ます教育により，思いやり，自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・ 「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善，及び家庭学習の充実を図り，学級を学びに向かう集団に成長させる。
- ・ 行事等への積極的な参画促進やボランティア活動の工夫，郷土への愛情を育む学習の推進を通して，児童の学級・学校・地域の一員である自覚を高める。
- ・ 「元気アップ教育」及び食に関する指導を推進し，運動に親しみ自己の健康を管理する能力を育成する。

（２）教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」づくり

- ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を高め，学校経営への参画意識を高める。
- ・ 協働遂行力・授業力・学級経営力・特別支援教育力の４つの教師力を身に付けるため，教職員の資質・能力向上策を推進する。
- ・ 県の「学校における働き方改革推進プラン」及び市の「児童と向き合う時間の充実のためのアクションプラン」に基づき，「勤務時間を意識した働き方」「業務改善の取組」の推進を図る。

（３）保護者にとって，「通わせて安心な学校」づくり

- ・ 児童が安心・安全で美しく潤いのある環境の中で生活できるよう，学びを高める環境の整備・活用に努める。
- ・ 児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり，家庭や地域の声を収集したりするなど，きめ細かで誠意のある対応を心がける。
- ・ 交通安全教室や避難訓練などを通して，児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

（４）地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- ・ 地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。
- ・ 地域学校園や児童会の取り組み，及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して，規範意識を高める取り組みを推進する。
- ・ 学校支援ボランティアや下校ボランティアなど学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。
- ・ 学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成にあたっては、「学習指導要領」「第2次宇都宮市学校教育推進計画」の趣旨を踏まえて適切に編成する。
- (2) 学校教育目標や本年度の学校経営の方針及び努力点・具体策、並びに学校課題に即して、地域や学校の実態、児童の心身の発達の段階と特性を十分に考慮し、教育課程編成のための視点を明確にして全職員の創意を生かした教育活動を実施し、人間として知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図る適切かつ、一貫性のある教育課程・各種年間指導計画を作成する。
- (3) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を教育課程全体の構造の中で明確に示し、子どもたちが確実に身に付けられるよう、教育課程の全体像を念頭に置きながら日々の教育活動を展開できるようにする。
- (4) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえた教育課程を編成する。
- (5) 市の「令和3年度指導の重点」を編成に反映させる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

個と集団を育てる教育実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進による，活気と創意に満ちた学校づくりを推進する。

- ・あいさつの響く学校づくりの推進
- ・「認め励ます教育」の実践
- ・居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
- ・時間を意識した効率的な業務の遂行
- ・子どもの姿を伝える積極的な情報発信

【学 習 指 導】

「自ら学びに向かおうとする児童の育成」 ～ 思いを互いに伝え、高め合う表現力の育成 ～

- ・望ましい学習態度，習慣の定着
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・読解力・表現力の育成
- ・読書活動の推進
- ・家庭学習の習慣化

【児 童 生 徒 指 導】

「自他への思いやりの心をもち，豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」
～ 学年・学級経営の充実を基盤として ～

- ・礼儀を意識した挨拶の定着，規範意識の醸成
- ・自己肯定感・自己有用感を育む学級経営の工夫
- ・主体性・思いやりを育むための縦割り班活動や異学年交流の充実
- ・奉仕の心をもち，自ら進んで仕事に取り組む態度の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

「自らの健康に関心をもち，望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」
～ 生活習慣の改善を目指した取組を中心として ～

- | | | |
|-----------------|--------------|-------------|
| ・健康の保持増進 | ・運動の日常化 | ・食に関する指導の充実 |
| ・判断力・行動力を育む安全教育 | ・家庭・地域との連携協力 | |

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・興味関心を高めるための授業の導入や展開、指導法を工夫改善したり、認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして、児童の学習意欲を高める。 ・学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質の向上に努めるとともに、対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 ・進んで学習に取り組むための具体策を子どもたちと共有するとともに、児童の頑張りを積極的に認め、各種たより、ホームページ等で、保護者に伝えていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 92.2%で、数値指標を達成した。また、保護者の肯定的回答率は、85.3%と昨年度より 0.5 ポイント上回った。 授業では根拠を基に自分の考えをまとめて友達に広めたり、友達の意見を聞いて考えを深めたりする学習活動を継続してきた。 【次年度の方針】 児童の頑張りが見られたことについては、積極的に認めるとともに、進んで学習に取り組めるような学級の雰囲気作りや学びを楽しめるような教材の工夫、1人1台端末の活用などを行い、興味・関心を高める。また、各種たより等で学習状況等を保護者に伝える。よりよい授業になるよう、全教職員で指導法を工夫改善する。一人一授業を実践し、互いに学び合うことで教師の授業力向上を図る。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	○本校及び地域学校園道德教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ、各教科等や体験活動等と関連した道德の授業を連携・工夫して実施することで、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 ・特別の教科道德及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道德及び人権教育を実施する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・掲示物や帰りの会などを活用して、友達の良いところを認め合う機会を設定することで、互いのよさを認め合おうとする意識を高める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、教職員が 96.0%、保護者が 92.5%で、数値指標を達成している。昨年度よりも教職員は 1.1 ポイント下回り、保護者は 3.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 学級・学年経営、道德、学級活動などの時間を活用し、生命や人権を尊重する心を育成しつつ児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。異学年交流などを通して、助け合いや思いやりの心を育てる。掲示物や帰りの会などを活用して、友達の良いところを認め合う機会を設定したり、自分の良さに気付ける活動を取り入れたりすることで自己肯定感を高め、互いのよさを認め合おうとする意識を高める。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活のきまり（「よい子の生活」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、83.8%で、数値指標を上回った。昨年度よりも5.8ポイント、上回った。 【次年度の方針】 縦割り清掃を重点的取組とし、3つの玉（がまん玉・しんせつ玉・みつけ玉）を磨こうとする取組を全教職員共通理解のもと指導に当たる。また、きまりの意味を児童とともに考えていくことを通して、きまりの必要性を感じ取らせながら継続して指導することで生活習慣の定着を図る。各学級で、きまりやマナーに関する目標を設定し、帰りの会等で振り返る活動を日々継続することで、児童の規範意識を高めていく。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率各 80%以上	○全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGSあいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつ標語を作ることで、意識を高める。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・日々のあいさつ運動の様子をホームページや各種たより等に掲載し、児童の様子を知らせ、PTAや地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、92.7%で数値指標を上回り、昨年度よりも4.7ポイント増えた。保護者の肯定的回答率は、79.3%で数値指標を若干下回ったが、昨年度よりも0.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 今年度と同様に振り返りカードを活用して、あいさつ運動週間における振り返りを家庭でも行うことで、家庭や地域でも気持ちのよいあいさつができるよう促す。児童自身があいさつ標語を作ることで、児童の意識を高めたり、地域協議会と連携しながら、代表作品の立て看板を作成し地域にも発信したりする。日々のあいさつ運動などを積極的にホームページやたより等に掲載し、保護者や地域の方々に児童の様子を知らせる。大人から率先垂範していくことをさらに継続していく。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・学級活動や各教科の授業、「すくすくチャレンジカード」など、各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・1日の終わりや学期の節目等に、児童が相互に認め合う場や、称賛し合う場、教職員が認め励ます場を工夫して設定し、「きらり賞」や「宮っ子心の教育表彰」などを通して、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は87.7%で、昨年度よりも1.2%、数値指標よりも7.7%上回った。授業においては、めあての提示や振り返りを行い、学習の成果を自分で記録・確認する機会を多く設けた結果と考えられる。 【次年度の方針】 各種検定等を実施したり、学級において夢や目標をもつことの大切さについて話し合ったりして、日々の努力の大切さを実感させる。各教科の授業においては、粘り強く意欲的に取り組めるようなねらいを設定していく。1日の終わりや学期の節目等に児童が相互に称賛し合う場を設けたり、「きらり賞」や「宮っ子心の教育表彰」で頑張りを認めたりすることにより自己肯定感を高めていく。さらに1人1台端末等を活用し、話し合い活動以外にも、お互いの意見を交流できるようにしていく。地域との交流も含めて、夢をもつことの大切さについての講話等を依頼し、目標をもったり、目標を高めたりすることにつながる活動を取り入れる。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・児童が自分の健康に関心を持ち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、学級活動や体育科、学校行事と連携したり、すすすくファイルや食育ファイルなどを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携したりした保健指導や日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や下校指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.7%，教職員は 84.0%で、数値指標を達成した。 すすすくファイルや食育ファイルなどを活用し、児童が自分の健康に関心をもてるようにし、養護教諭や学校栄養士と担任が連携し、保健指導、食育指導を行った。特に今年は養護教諭による全校への手洗い指導や学校栄養士による感染症予防に基づいた給食指導を行った。 運動委員会が水泳指導の前にプールの使用の決まりの動画を撮影し放送したり、水の事故の動画を視聴したり、避難訓練を行ったりして児童の意識の向上が図れた。 【次年度の方針】 引き続き、すすすくファイルや食育ファイルなどを活用しながら、養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。 運動量が確保された体育の実践と、外遊びを推進し、体力向上を図る。 自ら主体的に判断し行動できる場面を設定した安全教育を推進していく。 健康や安全についての振り返りをして児童意識を高めていく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる」【A5 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、学級活動との連携を図りながら、児童が自分のよさに気づき夢や目標をもって取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観及び職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間等、各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする契機とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気づき興味関心を高める機会とする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 87.7%で数値指標を上回った。学級活動や総合的な学習の時間においてキャリア教育を年間指導計画に位置付け、教科との横断的な取組を行ったりした。今年度は東京オリンピックが開催されたことで、国語や道徳などの教材をより身近なものとして捉えることができた。 【次年度の方針】 次年度も、キャリアパスポートを活用しながら、学級活動との連携を図り、自分のよさに気づき夢や目標をもてる児童を育成する。また、家庭や地域において夢を実現している人との交流活動などを可能な範囲で行い、夢の実現に向けて努力する意欲を高めるとともに、積極的に地域の人々や地域社会と関わろうとする態度を育成する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・ALTを有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身がALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行い、外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業向上に努める。 ・他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てるという意識をもった授業を行うよう努める。	【達成状況】 児童の肯定回答率は87.1%で、昨年度より3.9ポイント上回り、数値指標を達成した。授業中はALTと友達と積極的に英語でコミュニケーションをとる児童が増えた。段階のステップに身近な英単語を掲示する等、環境整備にも力を入れている。 【次年度の方針】 今年度同様、教師もALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行うようにすることで、児童が楽しみながら学習に取り組めるようにする。また、公開授業や授業研究会に積極的に参加し、自己の授業力向上に努める。外国語活動や外国語の授業のみならず、他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てる意識をもって授業を行うようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」⇒児童の肯定的回答率80%以上	・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICTを活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実に努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は81.9%で、数値指標を上回った。第3学年社会科を中心に、他学年においても宇都宮学の導入により学ぶ機会が増え、宮子ランチの献立から地域への関心が高まった。昨年度よりも遠足や校外学習を実施できたことで認知度が高まった。 【次年度の方針】 宇都宮学の時間を中心に、体験できる学習や、ICTを活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせるとともに、学んだことをまとめたり伝えたりすることで、より理解を深めさせる。また、道徳において郷土資料を活用し、郷土愛を育む。さらに、教師自身も宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう職員研修などに積極的に参加する。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台の端末やICT機器を活用し、効果的な学習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時期を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。 ・学校図書館利用の時間や読書・読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、87.1%で、昨年度よりも2.6ポイント上回り、数値目標を達成した。今年度、1人1台の端末を各自が利用するようになり、学習に活用しているという意識が高まってきたと言える。 【次年度の方針】 今年度、活用した状況を参考に、さらに効果的に1人1台端末やICT機器を活用できるように取り組み、約束やルールで使い方を固定するのではなく、情報モラルも含めて、自分で考え、判断しながら有効活用できるように、指導を繰り返す。 本校の図書資料の充実を図りつつ、公共図書館と連携しながら授業で有効に活用できる図書資料を準備する。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」【A2 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・読み聞かせや学習支援などボランティアなどの身近な高齢者にお世話になっていることを意識させ、各学習活動や感謝の会等の行事において、高齢者や地域の方と交流する機会を設け、感謝の気持ちや相手を思いやる心を育む。 ・各教科・領域や体験活動等と関連した道徳の授業を工夫して実施し、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 ・総合的な学習の時間や国語の学習等で住みやすい環境について調べる活動を通して、高齢者のことを考えて生活していこうとする意識を高める。 【A2 再掲】 ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 【A2 再掲】	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、90.5%で数値指標を上回っている。昨年度よりも 5.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 読み聞かせや登下校、学習ボランティアなど、日々の活動の中で、身近にいる多くの高齢者にお世話になっていることを意識させる。感謝の会等を活用し、感謝の気持ちを育むことができるようにする。総合的な学習の時間や国語の学習等でバリアフリーなど住みやすい環境について調べる活動を通して、高齢者のことを考えて生活していこうとする意識を高める。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・過去の災害に学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断し行動することの大切さを、避難訓練等を通して繰り返し指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 82.3%で数値指標を上回った。各教科との連携を図るとともに、第 5 学年の総合的な学習の時間に環境教育の単元を位置付けたことで、環境問題への関心が高まってきた。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させるとともに、委員会活動を通して学校全体に啓発できる取組を取り入れる。出前授業や関係機関の教育力を系統的に取り入れられるようにする。また、落とし物に注意したり、物を大切にしたりする意識を高める。さらに、環境問題や世界の動きについての啓発を行う活動を積極的に取り入れる。さらに、今後も計画的に避難訓練を実施し、災害から学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断して行動する大切さを指導していく。
B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・家庭学習を習慣化させるため、「すくすくカレンダー」を継続的に活用し、家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、支援に努める。 ・自主学習の手引きを作成したり、学年だよりの裏面などに家庭学習のよい事例やノートを紹介、頑張りを掲載したりして、自主学習への意欲を高めるようにする。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 70.5%で昨年度より 3 ポイント下回り、数値指標を下回ったが、児童の肯定的回答は 75%と昨年度より 4.9 ポイント上回った。 「すくすくチャレンジカード」という自分で考えためあてに向かって努力する形のシートを活用しているが、家庭学習の習慣については個人差が大きい。教師が助言や励まし等の支援をしながら取り組んでいる。 【次年度の方針】 家庭学習チームを立ち上げ、家庭学習の意義や内容、取り組み方について整理し、保護者へ知らせるとともに児童の意欲付けを図る。また、学年だよりに自主学習の取り組み方や児童の頑張りを掲載し、よく書いている友達のノートをクロムブックで共有することにより、家庭でも参考に見られるようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を大きく上回った。これまで、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努めてきた。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員で組織的に行う。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつながるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、標語を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりするなど、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 ・学校ホームページ、各種たより等を通して、行っている活動を保護者や地域に発信し、周知を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は98.3%で数値目標を上回った。いじめや人権に対する授業や活動を通して、いじめが許されない行為であることを繰り返し指導してきた。地域住民のアンケートでは、昨年度同様100%であり肯定的な回答が得られた。保護者アンケートにおいても、昨年度より11.4ポイント上回った。いじめの早期発見、即時対応、いじめ対策委員会の開催など、全職員体制でいじめ解決に努めることができ、いじめに対する教職員の姿勢は児童や保護者に伝わった。 【次年度の方針】 学級活動や道徳科の授業の中で、いじめが許されない行為であることを繰り返し指導するとともに、児童会が主体となり、標語やポスターをつくったり、強調月間に校内放送で呼びかけたりするなど、児童が積極的に「いじめゼロ運動」を推進できるような児童集団を育成する。また、学校ホームページを通じて、活動を行っていることを保護者や地域に周知していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励ましかうクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U調査（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は95%で、昨年度より3ポイント上がり、数値目標を大きく上回った。また、保護者の肯定的回答率も、昨年度と比べ1.2ポイント上がっている。 【次年度の方針】 教育相談や学校生活アンケート、Q-U調査等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努める。また、要配慮児童についての情報共有を教職員で行うとともに、家庭との連携を図りながら、組織的な支援を行う。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・児童が、様々な国や文化の違いやよさを知り、互いに認め合える環境作りに努め、互いに尊重して生活しようという意識を高める指導を行う。 ・外国人児童について全教職員で共通理解を図り、日頃から必要な配慮と周囲の児童への働き掛けを継続して行うとともに、ニーズに応じた支援を組織的に行う。 A13に同じ。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を大きく上回った。これまで、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努めてきた。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員で組織的に行う。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつながるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、言葉掛けや「かがやきカード」でプラスのメッセージを伝え合うなど、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を見直し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童のリーダーシップが発揮できるよう、活動の場を増やすとともに、体験を通して思いやりの心を育てる取組を推進する。 ・教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全員の児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は86.6%で、数値指標及び市平均を下回ったが、昨年度の肯定的回答率を上回った。新型コロナウイルス感染対策を十分にしながら、兄弟学年や縦割り班活動等の異学年交流を行ったり、温かい人間関係を育む学級・学年経営を心掛けて指導・支援をしたりしていたので、昨年度より向上した。 また、地域の肯定的回答率は93.8%で、昨年の93.3%からわずかに上回った。 【次年度の方針】 全児童対象の教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。 これからも温かい人間活動も育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を、教師自身もゆとりをもって行うようにする。 更に、代表委員を各行事ごとに設定し、児童の活躍の場を広げるなど、児童会活動や異学年交流等の内容を見直し、高学年児童のリーダーシップを発揮できる活動を増やしていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・ティームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。 ・個に応じた「朝の学習の時間」などを充実させ、個に応じた発展的な課題について改善を図り、学力の定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.3%で、昨年度より2.7ポイント上回り、数値指標を達成した。板書により児童の思考が整理できるよう促したり、ノート指導を強化したりしてきた。 振り返りの内容は、個人差が見られる。ドリル学習や小テストを取り入れ、少しずつ基礎基本が定着してきた。 【次年度の方針】 引き続き、「分かる・できる・楽しい授業」を目指して基礎・基本の確実な習得と、個に応じた発展的な課題について改善を図り、学力の向上を目指す。また、TTや少人数、かがやき等の指導を充実させ、児童の意欲付けにつながるようにする。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら、報告・連絡・相談を徹底し進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 88.0%で、数値指標を上回った。職場での人間関係は良好で、皆が協力し合っている。教職員と学校スタッフとの間でも、こまめに打合せや情報交換をしながら職務に当たっている。 【次年度の方針】 引き続き、教職員間でコミュニケーションを図りながら、全教職員で「チーム学校」体制で学校運営を行う。また、問題が起きたときは、報告・連絡・相談を徹底し、学校体制で対応を図る。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。 ・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、フォーカス&スクラップの考えに立ち、児童の実態等に考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・学習情報システムや I C T をはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 56.0%で、20.5 ポイント下回った。働き方改革の研修を行い、業務改善の目標や具体策を設定し、業務に取り組んでいるが、日々の児童指導や保護者対応、一人一台端末の導入に当たっての研修等に時間がかかっているため、目指す業務環境には至っていない。 【次年度の方針】 児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直す。また、各種行事等の目的を明確にして実施方法等を見直し、業務のスリム化を目指す。それによって、教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるようにする。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	○小中 9 年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ○WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。 ・取組の様子や成果等を保護者や地域に各種たよりやホームページなどで、積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 92%で、数値指標を達成した。 ・保護者・地域住民は、新型コロナウイルスの影響により「小中一貫・地域学校園」の取組が限られていたため、肯定的回答率の地域住民は上回ったが、保護者は下回った。児童生徒の肯定的回答率は、WGS あいさつ運動ができたので、前年度より上回った。 【次年度の方針】 中学校訪問に代わる紹介映像の活用や 1 人 1 台端末を活用したオンラインなど、状況に合わせて、感染症対策をした上で、実施していく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。	【達成状況】 ・保護者・地域住民の肯定回答は、81.7%・87.5%で、数値指標を下回った。 ・新型コロナウイルスの影響により実施回数が少なかった。 ・読み聞かせボランティア、学校農園ボランティア等は、状況に応じて活動していただいた。 【次年度の方針】 読み聞かせの方法の工夫や場の設定の工夫、1人1台端末を活用したオンラインなど、状況に合わせ、感染症対策をした上で、実施していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。【A22 再掲】 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 【A22 再掲】 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。 【A22 再掲】	【達成状況】 ・保護者・地域住民の肯定回答は、81.7%・87.5%で、数値指標を下回った。 ・新型コロナウイルスの影響により実施回数が少なかった。 ・租税教室、薬物乱用防止教室は、状況に応じて活動した。 【次年度の方針】 読み聞かせの方法の工夫や場の設定の工夫、1人1台端末を活用したオンラインなど、状況に合わせ、感染症対策をした上で、実施していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 96.0%、保護者は 88.1%で、数値指標を達成した。 安全点検実施計画に基づき、滞りなく点検を実施し、危機管理マニュアルの整備と避難訓練を実施した。 SSS や教職員による校内の消毒の徹底、教室の換気や加湿器、サーキュレーターの使用の呼び掛けを行い、今年は体育館にも熱中症計を設置して、機器を使った温度・湿度測定などの活動を行った。 また、各教室へのアルコールの配付や感染症対策セットの活用により予防対策を行ったり、職員研修等で周知徹底を行ったりした。 2階トイレの改修にあたり、環境を再確認して整備し、たよりで通知した。 【次年度の方針】 引き続き、安全点検の実施や危機管理マニュアルの整備、避難訓練等を行うとともに、熱中症及び感染症予防のため、温湿度計や加湿器、サーキュレータなどを使って、適切な管理を行う。

	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台端末やＩＣＴ機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。 【A10 再掲】 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。 【A10 再掲】 ・読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。【A10 再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は、87.1%で、昨年度よりも2.6ポイント上回り、数値目標を達成した。今年度、1人1台の端末を各自が利用できるようになり、学習に活用しているという意識が高まってきたと言える。 【次年度の方針】 今年度、活用した状況を参考に、さらに効果的に1人1台端末やＩＣＴ機器を活用できるように取り組み、約束やルールで使い方を固定するのではなく、情報モラルも含めて、自分で考え、判断しながら有効活用できるよう、指導を繰り返す。 本校の図書資料の充実を図りつつ、公共図書館と連携しながら授業で有効に活用できる図書資料を準備する。
本校の特色・課題等	B2 学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保（交通災害救急体制食物アレルギー等）のため危機管理に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答率90%以上	・児童の安全確保のため、家庭や地域及び関係機関から安全・安心に関わる情報を得るなど、連携・協力して、未然防止及び緊急対応のための体制を整える。 ・危機管理マニュアルを定期的に点検・改善・共有し、緊急時の迅速かつ確な対応に努める。 ・地震・火災、竜巻、不審者対応避難訓練及び保護者への引き渡し訓練等を年間計画にバランスよく配置して実施し、家庭や地域に情報を発信する。 ・「こども110番の家」協力者の更新・整備を保護者や地域と連携・協力して行う。	C 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は88.6%で、数値指標を下回った。 児童の安全のために、保護者・地域に便りを配付したり、一斉メールで注意喚起をしたりしてきた。 PTA活動として、保護者が学年ごとに朝の見守り活動を担当し、児童の安全や危険箇所等を確認した。 【次年度の方針】 引き続き、児童の安全のために学校が取り組んでいる活動を保護者や地域住民に積極的に発信したり、地域の方から安全・安心に関わる情報を得たりして、共に児童のために連携、協力することで、よりよい関係を構築していく。
	B3 児童は、読書のよさに気づき、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は読書のよさに気づき、進んで本を読んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本にふれあい親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるポップ作成で本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やしたり、家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践したりすることで、児童と本をつなぐ取組を推進する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は、70.3%で、数値目標を下回った。感染症対策により、本校図書館の自由開館に制限があったことも影響していると思われる。隙間時間に1人1台端末を使用する姿が見られ、読書を選択する児童に限られている傾向がある。 【次年度の方針】 自発的に読書を楽しめるよう、児童と本をつなぐ取り組みを工夫し、本を手にするための場を増やす。 長期休業や読書週間における家読（家族読書）の実践を踏まえ、学年に応じて「家読の日」を月に1回程度設定し、学校図書館で借りた本を持ち帰って読むことを奨励する。

	B 4 児童は、異学年交流を通して、自主性や豊かな人間関係を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動などや幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。【A2 再掲】 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりすることで、他の人のために役に立っているという意識(自己有用感)を高めるとともに、上学年が下学年の学級で、学習の成果を発表したり、下学年が上学年にインタビューしたりする活動を通して、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は、85.3%で数値指標を下回った。ただし、昨年度よりも2.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 縦割り班共遊活動や縦割り清掃、農園活動など、児童が主体的に活動できるよう工夫しながら異学年交流を推進していく。上の学年が下の学年の面倒を見たり、学習の成果を発表したりする活動を推進する。また異学年交流活動では各学年の児童にそれぞれの役割を与え、責任をもって活動したり、互いに教え合ったりする機会を作ること、人の役に立つ喜びを実感させ自己有用感を高めるとともに、他を思いやる心を育んでいく。
--	--	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 29項目中21項目で、肯定的回答率が数値指標を上回った。
- ・ 目指す児童の姿の「**進んで学習**」「**思いやりの心**」「**きまりやマナー**」「**あいさつ**」「**健康や安全**」「**ICT 機器や図書等**」、目指す学校の姿の「**いじめ対策**」「**不登校を生まない学級経営**」「**活気があり明るくいきいきとした雰囲気**」で、保護者・地域・児童のうち該当する全ての対象から概ね高い結果が得られ、昨年度よりも肯定的回答割合が上回った。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・ 保護者・地域・児童から高い結果が得られている目指す児童の姿の「**進んで学習**」「**思いやりの心**」「**きまりやマナー**」「**あいさつ**」「**健康や安全**」、目指す学校の姿の「**活気があり明るくいきいきとした雰囲気**」では、教職員の肯定的回答割合が、昨年度を下回っている。教職員の意識の高さを感じるものの、課題解決に向けて、教職員が共通理解を図り、同一歩調で取り組んでいくことが重要である。今後も、チームとして協力して学校運営に取り組んでいきたい。
- ・ 本校の特色・課題である「**異学年交流**」においては、コロナ禍に対応した活動を行ってきた結果、地域・児童・教職員で肯定的回答割合が昨年度を上回り、高い結果が得られているが、保護者においては、昨年度を下回っている。学校での取組を保護者に積極的に情報発信することが必要である。また、「**家庭学習の習慣**」「**進んで読書**」においては、保護者・教職員において、肯定的回答割合が昨年度よりも下回り、課題が見られた。今後、改善に向けて取り組んでいきたい。
- ・ 「**小中一貫・地域学校園の取組**」「**地域の教育力を生かした特色ある教育活動**」「**家庭・地域・企業等との連携・協力**」についても、学校での取組を保護者や地域に積極的に情報発信することや、相互理解の下、より一層の連携・協力を推進する取組が重要である。
- ・ 未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

7 学校関係者評価

〈テーマ1〉「きまりやマナー」「あいさつ」

- ・ 全体的によく指導が行き届いていると思います。先生方の評価が若干低いのは現場で実際に指導した際にそれだけ問題意識が高いからだと思います。
- ・ あまり外出せず、児童と顔を合わせることが少なく、顔を覚えられていないせいか、児童からのあいさつは少ないが、こちらからあいさつすると必ず返事が返ってくる。
- ・ 顔見知りの方には、きちんとあいさつしている。
- ・ あいさつは、子どもたちにとって必要な言葉であるが「なぜ」必要なのかについての理解ができていないように見受けられる。押し売りのようなお願いや指導ではなく、言葉の意味やコミュニケーションツールとしての必要性を教え、児童の皆さんが一声かけることにより、友人や仲間との一体感が生まれるような教育が必要ではないか。
- ・ きまりやマナーを守り、先生の言うこともよく聞き、あいさつについてもきはきと気持ち良くされており、学校指導が伺える。
- ・ きまりやマナーを守ることに、昨年増加した教職員の肯定的回答割合が一転して減少している。今後は、対策に取り組むことになろうが、管理の強化ではなく、きまりを守ることやあいさつの大切さについて、児童と共通理解を醸成するような方向で努力を期待します。
- ・ マスクを着用し感染防止に努めている。きまりを守ろうとする意識を感じる。登校時は、整然と歩道を歩いているが、下校時に車道に出してしまう等、心配になる行動が低学年層にみられる。
- ・ 児童は学校生活の中で、きまりを守り授業を受けていると思います。しかし、ある学校では、PTA・地域から授業中に大声を出したり、立回り授業を妨害したりする児童がいて聞いています。
- ・ 登校時、正門前の立哨時に高学年の方は、大声であいさつしてくれる。低学年の方は、あいさつは難しい。学校内では、あいさつは大声でしてくれる。ここ5年前よりは、学校・地域ではあいさつは良くなっています。
- ・ 児童の生活態度がわからないため、「きまりとマナー」については、評価困難であるが、現在の取組は継続をお願いしたい。
- ・ あいさつは、よくできている。
- ・ 数字だけを見せると教職員と児童との感じ方に差があるように見えます。児童にとってこのコロナウイルスとの生活状況では、とまどいのようなものがあるのではないかと思います。特にあいさつでは、差があるように見えたが、児童の肯定的回答が高いのは、教職員の方々、地域住民の方々などのあいさつの大切さの思いが、ちゃんと児童には伝わっているのだと思いました。
- ・ 学校に行く事が減ってしまい、児童の様子は、登下校時に時々見るくらいですが、下校時は、児童によってはとても危険な歩行をする姿がよく見られます。（横に並んで歩行するなど）
- ・ 生活目標に「きまりとマナー」に関する目標を設定し、児童の主体性を高めながら習慣化を図っていく事は重要と思う。
- ・ 日々のあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて期待しています。

＜テーマ２＞「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」・「家庭・地域・企業との連携・協力」

- ・外部の協力，理解を得るのは難しいと思いますが，高評価になっているので，現状でいいと思います。
- ・地域協議会との連携は理解しているが，他部門との関連は見えない（確認できない）ので，評価不能。
- ・地域との連携で，自治会で協力できる内容，行動等がありましたら，是非声をかけてください。
- ・学校側からの情報提供（新田小だより等）が定期的にあり，回覧を通じて地域住民に届いている。
- ・地域協議会が最も本領を発揮できる分野の一つなのに，コロナ禍の状況で十分な協力ができていなかった。短期的な肯定的評価の低下に左右されず，協議会として継続的に協力していきたい。
- ・地域の企業等の人達と交流し，様々な体験や経験の場を増やしてもらい，「コミュニケーション」能力の向上や地域への理解，関心を深めることで，子どもたちの育成に繋げる。
- ・学校は，地域企業等に何をお願い（求める）したいのか，具体的に示さないと連携はとれないのではないのでしょうか。これから学校運営は難しくなっていくと思います。それに伴い，新田小だより等に具体的な文書を入れ，PRしたらどうでしょうか。また，新年度に管理職の方は，地域の企業を訪問したらどうでしょうか。地域の老人会長との連携は難しい。この問題は，新年度の地域協議会のテーマに取り上げたらどうですか。
- ・このような社会情勢では，地域・企業等との連携・協力は困難なことが多いと思われるが，オンライン等を活用してできることは実施していただきたい。
- ・コロナウイルスにより活動が制限されるなど，活動するのはとても難しく大変だったと思います。さらに感染が拡大する中で，通常のように活動できない中で支援や協力など大変ありがたく感謝しています。
- ・どの様に，連携協力をされているのかはほとんど分かりません。自治会の方々の登校時の見守り活動は，とても熱心に活動されているのではないかと思います。
- ・新型コロナ感染症により，実施回数は少なかったとの事だが，状況に合わせて実施されていく事が大切だと思います。

＜テーマ３＞「児童の安全確保・危機管理」

- ・まずは子どもたちの安全確保が最優先で必要だと思いますが，先生方の評価が高いので安心しました。
- ・コロナ対応等の連絡メールで，しっかり管理していると感じる。
- ・子どもたちの安全確保は，地域の防犯とつながっています。登下校での見守りや危険箇所の発見など，解消に取り組みたいと思っています。
- ・登下校見守り活動における当地域の不十分さについて反省している。
- ・「こども１１０番」の拡大に努めたいと考えている。
- ・教職員，保護者，地域住民とも高い肯定的で，取り組みの成果と考えます。しかし，この分野には十分ということはなく，今後とも地域は，学校と連携，協力していきたいので，今後とも連絡を密にしていきたい。
- ・児童の安全を地域一丸となって見守ってもらうため，学校の取り組みを理解してもらうためのリーフレット等を作成し，企業や自治会等に配布する。
- ・現在のボランティアの方は，児童の安全確保については，以前より実施していますが，これからは自治会が主体で実施していくしかないと思います。危機管理にしても，地域の詳しい話が学校側よりされてない様に感じます。（現在，保護者，役員にメール配信があります。一般の方をどうするか。）
- ・このテーマは，地域と非常に関わりが深いと思われるため，自治会に協力可能なことがあれば，提案していただきたい。
- ・教職員，ボランティアの方々などの見守り活動や児童の安全のために協力してくださっている方々には，大変感謝しています。数字だけを見てしまうと，なかなか難しいと感じてしまいます。
- ・一斉メールで，注意喚起をいただけるのがありがたい。
- ・今年度も自治会活動を行えていない状況ではあるが，通学路等で危険箇所がないか，見守っていきたい。

＜その他＞

- ・コロナ禍での生活指導や学習指導で大変だと思います。先生方も無理なさらずにご自愛下さい。
- ・コロナ禍での教育や生活対応に苦慮していると思いますが，是非，子どもたちの未来は明るいこと，開けることを教えてほしいと思います。
- ・最近問題になっているヤングケアラー，貧困家庭等について実態把握は，どうなっているのでしょうか。
- ・放課後や休日に西川田川（橋の近くで比較的水がある場所）で，水遊びをする児童（新田か姿一かは不明）がいる。川自体は浅くあまり危険性は感じられないが，両側の道路が比較的交通量がある。自転車の止め方が乱雑であったり，遊びに夢中になって道路の無造作に出たり，危険を感じる場面がありますので，情報提供します。
- ・学校に地域の方が遊びに来てくれる対策等を考えてほしいと思います。検討をよろしくお願いいたします。

- ・昔の先生方は、学校に行けばあいさつももらったが、最近学校に児童を迎えに行っても、一部でしょうが、あいさつをしてくれないと地域の人から聞きますので、ご指導をよろしくお願いいたします。（私も以前より有ります。）
- ・子どもは、卒業していますが、たくさんの方々の協力、支援があって6年間の学校生活を送ることができたのだと感じています。そして今、中学生を送れているのは、この6年間があったからです。なかなかお伝えする場がありませんので、ここで書かせていただきました。教職員の方々、地域の方々などへ、本当に感謝しています。
- ・学校内では、出来ているか？最近では校内の様子を見る機会がないため、何とも言えません。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

＜学校運営＞

- ・重点目標に「個と集団を育てる教育実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進による，活気と創意に満ちた学校づくりの推進」を掲げ，あいさつの響く学校づくりの推進や「認め励ます教育」の実践を繰り返し，居心地のよい温かな学級集団づくりに取り組んだり，時間を意識した効率的な業務の遂行やホームページなどを活用した子どもの姿を伝える積極的な情報発信を行ったりと，保護者や地域の協力の下，教職員が一丸となって推進してきた。次年度も，教育目標である「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」「体力のある子ども」「はたらく子ども」の実現を目指し，引き続き，学校と家庭，地域が協働し一体となって取り組んでいくとともに，教職員が互いに磨き合う意識を高め，切磋琢磨する場の充実を図ることで，学校力を高めていく。

＜学習指導＞

- ・「自ら学びに向かおうとする児童の育成～思いを互いに伝え，高め合う表現力の育成～」を重点目標に掲げ，望ましい学習態度，習慣の定着，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善，読解力・表現力の育成，読書活動の推進，家庭学習の習慣化について実践を繰り返してきた。今後も今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて，更に児童の実態に即した工夫改善を行うことにより，児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し，学びに向かう態度を身に付けられるよう，実践を繰り返していく。また，地域素材や地域人材，地域の教育力を生かして，児童が互いのよさを認め合い，共に学び合う授業の展開を追究していく。

＜児童生徒指導＞

- ・「自他への思いやりの心を持ち，豊かな人間関係を築くことができる児童の育成～学年・学級経営の充実を基盤として～」を目指して，礼儀を意識した挨拶の定着，規範意識の醸成や自己肯定感・自己有用感を育む学級経営の工夫，主体性・思いやりを育むための縦割り班活動や異学年交流の充実，奉仕の心を持ち，自ら進んで仕事に取り組む態度の育成について，家庭・地域・関係機関と連携し，基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成，望ましい学年・学級集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後も引き続き，学年・学級経営の充実を基盤とした自他への思いやりの心を持ち，豊かな人間関係を築くことができる児童の育成を目指し，課題となるきまりやマナー，あいさつの定着に向けて，家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

＜健康（体力・保健・食・安全）＞

- ・「自らの健康に関心をもち，望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～」を重点目標に，家庭・地域と連携し，健康の保持増進，運動の日常化，食に関する指導の充実及び判断力・行動力を育む安全教育，家庭・地域との連携協力について推進してきた。今後も，同重点目標に向かって，これまでの成果と児童の実態をもとに取組を更に充実させていく。児童が自らの命を守り健康を保持増進するために，主体的に考え，判断し，行動することができるよう，更なる指導の工夫改善を行う。その中で，困難への挑戦や苦手なことの克服等，夢や目標に向かって諦めずに取り組む，自己肯定感やたくましい心につながる体験を重視していく。